研究区分	教員特別研究推進　教育推進

研　究 テーマ	英文法のｅラーニング教材開発　―ユニバーサル・アクセスを目指して―				
研究組織	代　表　者	所属・職名	言語コミュニケーション 研究センター・教授	氏名	藤森　敦之
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発　表　者	所属・職名	言語コミュニケーション 研究センター・教授	氏名	藤森　敦之

講演題目

英文法のｅラーニング教材開発　―ユニバーサル・アクセスを目指して―

研究の目的、成果及び今後の展望

昨今、高等学校までの英語教育においてコミュニケーションが重視される一方、英語の文構造を理解する上で大切な文法知識が欠如したまま大学に入学してくる学生が増加している。本研究では、学生の英語文法力の定着および向上を目指し、授業外で使用できる e-learning 教材の開発にあたった。

1 データベースづくり

公開されている TOEIC の公式問題集を参考にしながら、品詞や時制・アスペクト、態、主語と動詞の一致といった文法問題の分類を行なった上で、タイプごとの問題文のデータベース作成に取りかかった。数十回の練習にも耐えうるよう、問題文のデータベースを大きくする必要があったが、ChatGPT などの AI をアシスタントとして活用し、作成された問題や解説を教員が確認・修正することで、より多くの問題文を効率的に作成することができた。また、この手法は語彙問題の作成にまで応用できることが確認された。

2 予備調査

作成したデータベースをもとに予備調査を行った。TOEIC 平均 400 点前半の 1 クラス(20 名)を対象として、８週にわたり、Google Form を使用したオンライン学習を行なった。TOEIC の文法問題同様に、多肢選択式で問題が出され、学習者はスマートフォン等で問題に取り組んだ。解答後、正答数とともに誤った問題のタイプが指摘され、該当する文法項目の解説資料に誘導された。授業内ではすでにアニメーションを活用した文法概念の学習を行なっていたが、同様の資料へのアクセスを通し、学生の気づきを促進した。一連の学習により、事前事後に行なった TOEIC IP テストの結果を比較したところ、文法項目の平均正答率が 57%から 72%に上昇するとともに、トータルスコアも 80 点以上伸びていた。これは、文法問題に対してより早く正確に対応できるようになり、他の長文読解問題により多くの時間が割けるようになったためと考えられる。

3 オンライン・プラットフォームの作成

予備調査で行った一連の活動を一つのオンラインサイト上で行えるよう、静岡大学情報学部学生のサポートを受けながら、簡易プラットフォームの作成を行なった。これにより、各学習者はプラットフォーム上で問題に取り組めるだけでなく、これまでの項目別解答結果が累積的に%表示され、自分の得意・不得意項目がレーダーチャートで俯瞰できる。また、不確かな項目に関する解説動画や資料へピンポイントで何度もアクセスすることで、理解を深める反転学習が促進される。現在は新たな学習者を対象として試行中であり、今後、運用結果を国内外の学会や雑誌で発表していく予定である。オンライン・プラットフォームを利用することで、授業外にいつでもどこでも繰り返し自分のペースで学習を進めるユビキタス・ラーニングを促進することができる。また、外部業者への委託ではなく直接指導する教員が開発に携わることで、学生のレベルに合わせて容易にカスタマイズできることも特徴である。本システムの活用により、基本的な文法知識の定着を均一に促進できるとともに、授業内では教員が発展的な内容に集中し、インタラクティブに授業を展開することができるようになる。将来的には高校生など多様な学習者層での活用も試みながら、ユニバーサル・アクセスの実現を目指す。